

# 第1章 新水道ビジョンの策定にあたって

## 1.1 新水道ビジョン策定の趣旨

厚生労働省は、平成16年6月(2004年)に今後の水道に関する重点的な政策課題とその施策を明示する「水道ビジョン」を公表しました。(平成20年7月(2008年)改訂)

平成25年3月(2013年)には、総人口の減少(図1-1)に伴う水需要の減少、水道施設の老朽化対策、度重なる災害における経験を基に、防災対策の意識向上を含めた危機管理対策の重要性など、水道を取り巻く状況の変化を踏まえ、「地域とともに、信頼を未来につなぐ日本の水道」を基本理念とした「新水道ビジョン」(図1-2)が策定・公表されました。

一方、本市においては平成20年3月(2008年)に「いちき串木野市水道ビジョン」を策定し、計画的に事業を進めてきました。しかしながら、本市を取り巻く環境も国と同様に、人口減少に伴う水需要の減少、水道施設の老朽化等による更新需要の増大への対応に加え、南海トラフ地震等の発生も危惧されていることから、東日本大震災をはじめとする度重なる災害の教訓を踏まえた危機管理対策が大きな課題となっています。

このように、水道を取り巻く環境の変化の中で、国全体の動きや近年の自然災害の脅威などを背景に、中長期的将来を見据えた強靭で安全、持続可能な水道の理想と計画を示した新たな水道ビジョンの策定が求められていることから、50年から100年先の中長期的将来を見据えた将来ビジョンの実行計画として、

## 「いちき串木野市新水道ビジョン」

を策定しました。

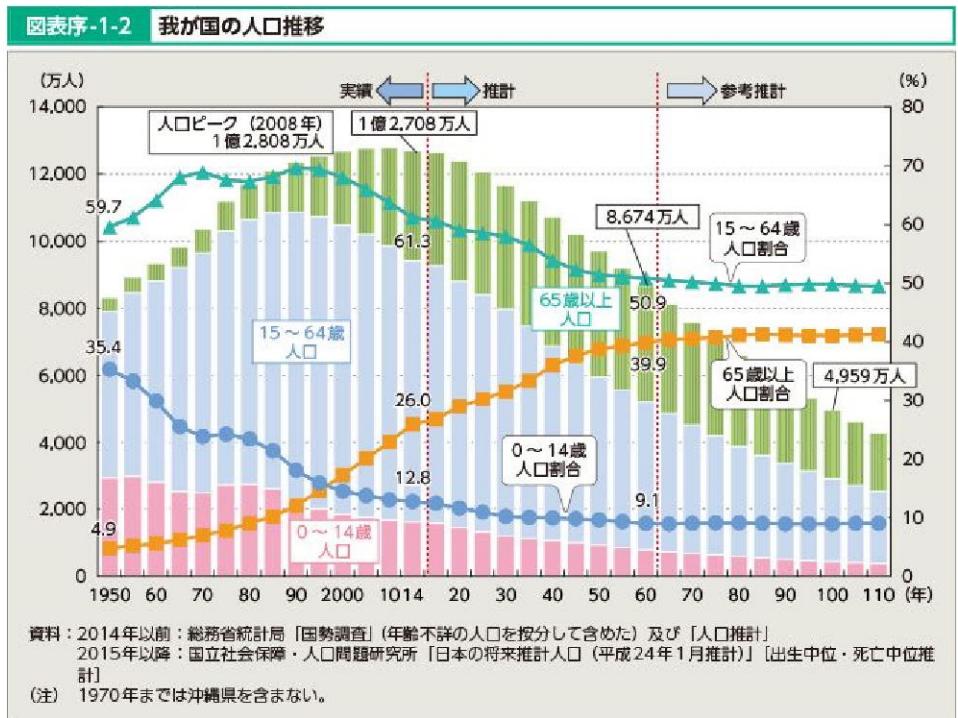


図 1-1 我が国の人団推移(厚生労働省)

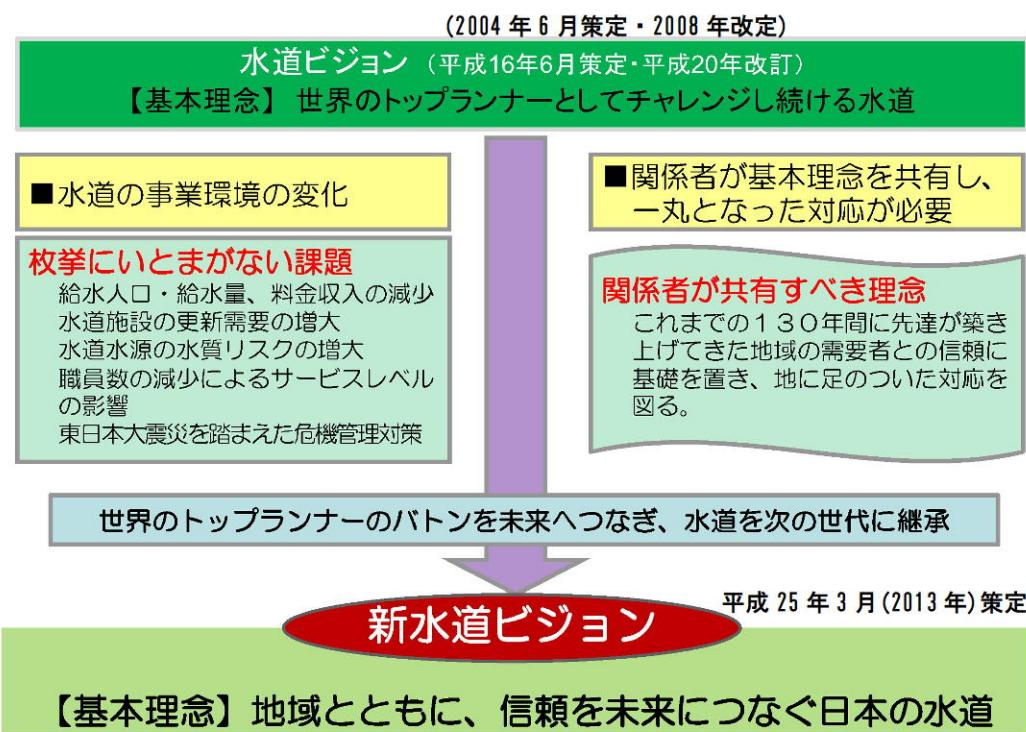


図 1-2 新水道ビジョンの基本理念(厚生労働省)

## 1.2 計画期間

計画期間は、2019年度から2028年度までの10年間とします。計画期間内において、社会的状況や自然的状況などに大きな変化が生じ、水道事業運営に対する影響が想定される場合には、当該計画を改善し方向修正を図った上で、時代に即した計画を目指します。

## 1.3 新水道ビジョンの位置づけ

いちき串木野市新水道ビジョンは、「いちき串木野市第2次総合計画」との整合を図るとともに、厚生労働省の示す「新水道ビジョン」に掲げられた目標の実現と総務省の示す「経営戦略」を視野に入れ、また中長期的将来を見据えたアセットマネジメント<sup>1</sup>手法も活用し、本市水道事業の方向性を定める総合的なマスターplanとして策定するものであり、今後事業を推進していくための指針として位置づけられるものです。

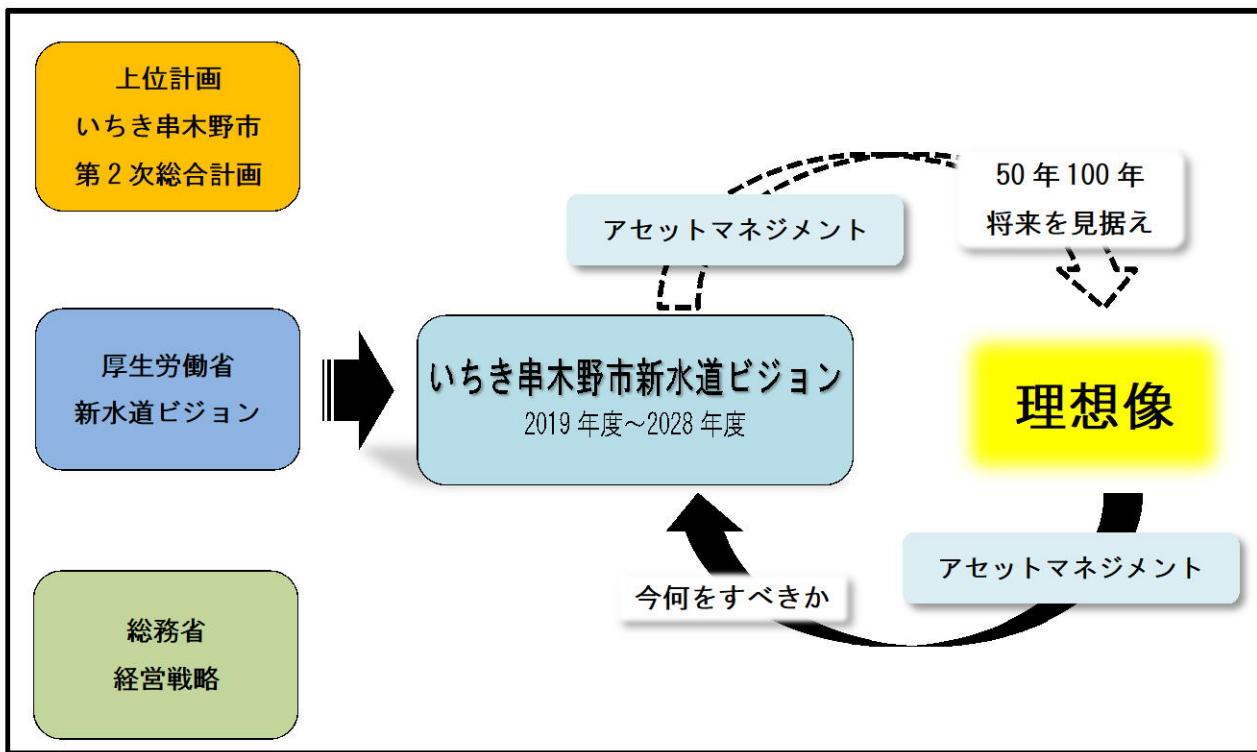


図1-3 新水道ビジョンの位置づけ

<sup>1</sup> アセットマネジメント：

水道ビジョンに掲げた持続可能な水道事業を実現するために、中長期的な視点に立ち、水道施設のライフサイクル全体にわたって効率的かつ効果的に水道施設を管理運営する体系化された実践活動。